

小田城 おだじょう

小田氏十五代の祖である八田知家（はたともしよ）は、宇都宮の八田宗綱の子で、源頼朝の信任が厚く、最初の常陸守護に任命され、鎌倉時代初期に小田に居城を構えた。何重もの堀や土塁は、長年の改修により広げられたもので、前山（まえやま）の麓にまで外郭の空堀や土塁ができたのは戦国時代末期といわれている。

一五六九年（永禄十二年）には常陸太田の佐竹氏により小田氏は城を追われ、その後三十三年間は佐竹氏の家臣の居城となるが、関ヶ原の戦いで西軍にいた佐竹氏が、秋田移封にさせられたに伴い、一六〇二年（慶長七年）に廃城となった。

※武家屋敷にちなむ地名
「太郎右工門屋敷」「新左工門屋敷」「田土部郭」「南館」「丹後屋敷」「信田郭」
※町場にちなむ地名
「今宿」「田向」「荒宿」「鍛冶屋敷」「天王」「見世屋」「西町」「裏宿」

本丸跡 ①
本丸の堀は、現在は水田となり、かつての名残が見られる。堀に囲まれた場所を曲輪（くるわ）、その出入口を虎口（こぐち）と呼ぶ。本丸の虎口は、東に正門、北に土橋、南西に橋があったとされる。本丸には、平屋の館の遺構が発掘された。一九三五年（昭和十年）に国指定史跡になったが、それ以前の九年（大正七年）に筑波鉄道が開通し、本丸を分断する形で線路が走っていた。廃線後の自転車道は本丸を迂回するように作られている。



鐘撞堂（かねつきどう） ②
本丸跡の北東部。見張台があったともいわれ、高台になっている。近くには大五輪塔の他、近年に極楽寺の尼寺跡周辺で発掘された小五輪塔群があったが、小田城跡案内所の敷地に移設された。



涼台（すずみだい） ③
本丸跡の南東部。庭園の築山に見立てて盛られたと推測され、発掘調査により北側に池跡が見つかった。頂上には、近年に枯死した大ケヤキの切り株が残る。
中城（なかじょう） ④
小田児童館あたり。児童館の北から西へ連なる水田は堀跡である。
馬場（ばば） ⑤
小田小学校あたり。西へ連なる田畑は堀跡である。江戸時代には陣屋（役所）が置かれていた。小学校の南西端の稲荷神社は当時からあった。
大町（おおまち） ⑥
本丸の東側の幅広の通りは「大町」とよばれた通りであった。通りの南端の三又路には、三宝荒神（さんぼうこうじん）の石碑があり、土浦へ続く街道と城へ続く細道に分かれる。城に続く道でありながら細道なのは、攻略に備えたものだと思われる。細道は「の木戸（いちのきど）」を経て、本丸の東虎口（正門）に着く。通りの北端の十字路に、現在は史跡案内板がある。



八幡川（はちまんかわ） ⑦
小田の北、平沢の八幡神社より流れる川である。小田城の堀に取水したといわれるが明かではない。
ご隠居堀 ⑧
宝篋山小田休憩所の北にある窪地は、外堀とされ、「ご隠居堀」と呼ばれる。東の水田のあせ道には、かつてクヌノキの大木があった。明治中期に枯死したが、この地域に自生しないクヌノキは、極楽寺への参道の目印だったので推測される。



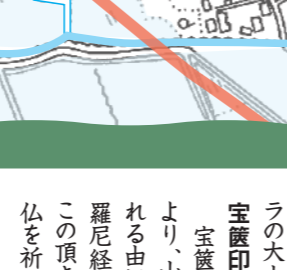
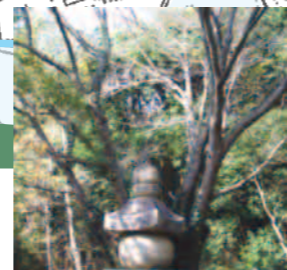
三村山清冷院極楽寺

三村山（現在の宝篋山）の極楽寺が鎌倉初期に存在したことは、等覚寺（土浦市大手町）に残る銅鐘の銘により知られる。二五二年（建長四年）より十年間、奈良西大寺の僧、忍性（にんしょう）がとどまったことで、関東の真言律宗の中心地として長い間、栄えた。その後、忍性は鎌倉に移り、鎌倉の極楽寺を発展させている。小田に残る多くの石造美術品は、西大寺石工集団の影響を受けたもので、忍性が律宗文化を広めた証拠であり、全国的にも珍しい。その後、三村山極楽寺は、度重なる戦火により衰退したと思われる。寺院跡は未調査であるが、鎌倉時代の瓦葺遺跡や極楽寺の文字瓦の破片が掘り出されている。現在は水田が広がり、ワシタカ、ヤマザクラ、ヤマツツジなどが見られる登山道としても親しまれる。

三村山不殺生界碑 ⑨
（みむらさんふせしょうかいひ）
極楽寺一帯を殺生禁断の地とするための結果石で、小田地区に移された三基の内の一。 「三村山不殺生界」と大書され、両脇に建碑の年月日が刻まれ、二五三年（建長五年）の作と分る。残りは、八坂神社の境内と個人宅にある。
石造灯籠 ⑩
長久寺の境内にある。灯籠が二基ならぶのは江戸時代以降のもので、古くは参道中央に一基設置し、灯をあげることで仏の供養の慣わしであった。かつては極楽寺本堂の前にあったと推測される。鎌倉時代の作。鎌倉では戦乱のために鎌倉時代の石造灯籠が現存しない今日、貴重な作品である。県指定文化財。

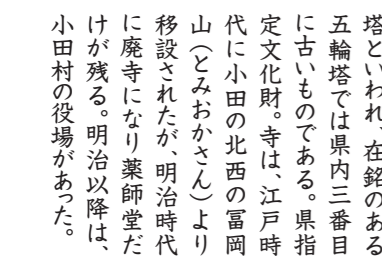


湯地藏 ⑪
「湯地藏」と呼ばれ、今も崇拜されている。地藏が収まる石籠（せきがん）には二八九九年（正応二年）と刻まれ、鎌倉時代の作。県指定文化財。



神社仏閣、石碑、史跡

八幡神社（はちまんじんじや） ⑭
前山の麓に位置するが、かつては小田の北西の甲山（かぶとやま）にあつたらしい。南北朝時代に藤原氏の出自であった小田氏が源氏に改姓したことで創建されたようである。
延寿院薬師堂（えんじゅいんやくしどう） ⑮
本尊の薬師如来は小田氏の奇連で室町時代の作。薬師堂北側にある五輪塔は、妙西尼と称する女人の三十三回忌の供養塔といわれ、在銘のある五輪塔では県内三番目に古いものである。県指定文化財。寺は、江戸時代に小田の北西の富岡山（とみおかさん）より移設されたが、明治時代に廃寺になり薬師堂だけが残る。明治以降は、小田村の役場があった。



つくば市都市計画図を基に作成

